

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—オンライン CIS 活動報告(タイ)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門

特任准教授(常勤) 勝又 美穂子

2021年2月15日～22日の期間でタイと日本を結んでオンラインカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。本年度は新型コロナの影響で海外へ渡航出来ないことから、プログラムの目的や学習効果は最大限、現地実習と同様に据えたオンラインCISへと変更になりました。タイCISには大阪大学の外国語学部2名、経済学部1名、工学研究科1名、カセサート大学人文学部2名と機械工学部2名の計8名の学生が参加しました。

本学学生は6月から8回にわたり実施された事前研修で企業、文化、CIS課題等について学び、準備をしてきました。オンラインCIS開始後2日間の事前研修では、アイスブレーキングを目的としたコミュニケーションの研修、両国紹介、5S、3現主義などを含むものづくり日本企業の強み、溶接基礎知識、CIS実習テーマの検討などを学生が主体となり進めました。2月17日からはナワナコン(バンコク近郊)にあるOTCダイヘンアジアとオンラインで接続し、企業紹介と、3回に亘る社員とのインタビューを実施しました。学生は実習テーマである「コミュニケーションの課題と対策」に関して、日本人幹部、タイ人マネージャー、スタッフ等へ多

くの質問をし、企業の皆様から熱心な回答を頂戴しました。その後学生はチームでの協議により情報整理と考察・検討を行い、最終提案へとまとめ上げました。

最終日の2月22日(月)はオンラインで最終報告会を開催しました。最終報告会には、OTCDAの辻井副社長、森山部長、野田工場長他タイ人マネージャー等、カセサート大学のProf. Nontawat(機会工学部長特別アドバイザー)、Dr. Apichart(同国際担当)、当研究所の菅客員教授、及び勝又特任准教授が参加しました。A・B両チームからは課題に対し、異文化理解の重要性、コミュニケーションしやすい環境構築、交流活動の促進等様々な観点からの改善提案がありました。辻井副社長からは「短く限られた環境にもかかわらず多様な提案があり驚いた」、「オンラインでも学生が連携を深め、学んでいる様子が見えた」等のコメントを頂戴しました。

参加学生からは、新型コロナの影響で本年度は様々な研修や活動が減る中で実践的に企業や海外学生と交流できる貴重な経験となった等の感想がありました。学生にとり、この経験が将来の実践活動に大きな意義として繋がることを確信しています。

